

激動の2017年決戦へ!

2016年12月19日
No.431

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

12・11全学連拡大中央委員会での 斎藤いくま委員長のまとめ!

まだ、まとまらない状態ではありますけども、明日の12・12集会を力強く打ち抜いていきたいと思っています。

全体の議論を受けて、私が非常に思ったのが全学連運動が、ものすごい前進をしているという事です。



とりわけ、法大闘争で全てをかけた時代というのは、当たり前ですけども、「授業を受けるか、逮捕されるか選べ」というのが、当時の議論でした。当時は本当にそれしかなかった。ある意味では、法政の文化で言われていたことですけども、中核派が頑張っただけで突入する。そして、ノンセクトが大学側と交渉して、利益を守る。これが法政大学の運動なんだと、2007年にノンセクトの先輩に教わったんですよ。自分の力で運動をやれよという、話なんですよ。

だけど、なんにせよ学生の権利は守られていたんですよ。だから、ある意味それでよかった。

全学連の側は、それで良いわけがないと思っているんですよ。だから、法大闘争は、ああいう形になるしかなかったし、僕らはそこに挑戦しました。政治上の柔軟性だとか、簡単じゃない時期も通ってきました。だけど、その時に闘えなかった人たちは、大学にはいません。自分たちがどういう運動をしたいのか、大学の中で示すことが出来なくなったからです。逆に残ってはいるけど、何もしていないのが京大です。そういう時期には、全学連に入ってこなかった人たちが、大量に入ってきています。

新しく入った人がいて、一つ大きな内容で、しっかり勝負していくことをやっている。その中でいろんな



12/11京都市内にて全学連拡大中央委員会打ち抜く

激論が生まれてくるというのは、全学連の前進が勝ち取った地平だろうと思います。寮生が寮闘争をやるうえで、委員長が問われたのはなにかと言えば、自分がどういう運動をやりたいのか。何を大事にしたいのかを、本当に大事にしないといけないんだという事です。全学連の側がどういう風に、どういう立場で何を大事にする運動なのか、自分たちの積極性でもって、語れなくちゃいけないと思います。自分でやって気付いたんですけど、今回の議案は全学連史上初で、安倍政権打倒という言葉がないんですよ。政権打倒という事を、あえて書いてないんですよ。僕らがやりたい事は、政権打倒ではなく、資本主義を変えること。団結の力で社会をひっくり返すことだからです。そのために、僕たちが何を勝ち取るべきなのか。何を転換すべきなのか。その為に、どんな内容を出すべきなのか。ここに、意識が注がれたからこそ、政権打倒と直接には書いてない議案になりました。

僕ら自身の、積極性が極めて問われるだろうと思っています。その観点から、全学連がどうするか。全学連はいいけども、他の運動がフワフワしたことをやっている。その、「住み分け」であった関係を全部、ぶち壊して、僕らが全てのことに對して、責任を取って

かないといけない。本当に問われていると思います。

党派闘争を行うとき、どういう宣伝をしていくのか。どういう組織を作っていくのかについて、何を大事にしているのか。自分たちの思想、理論、学生自治会というものを、どう見ているのかの議論はもっと深めていきたいと思います。ずっと引き継いだものを、しっかり継承する事と、宣伝をしていく事が重要です。

「自分がこの場にいたらどうするか」、「自分が運動に関わろうと思うか否か」、極めて意識すべきです。

例えば、クラス討論の時に、自分ならどういう反応をしたかどうかを、すごく大事にして、社会と繋がっているんだと訴えるように、自分の言葉が問われます。

民主労総の闘いから学ぼうというのは、民主労総が現場で、そういう闘いをやってきたからだだと思います。鉄道ストライキが示していますが、自分たちの誇りを掲げて、民営化阻止を訴えて闘っています。支持が得られるかどうかは関係なく、突撃して、民衆自身のスローガンになっていきました。重要なのは、出てくる意見を全部自分たちの方針にして闘っているわけです。

このことが、僕らに本当に問われていると思うし、方針が信頼を持って、向かい入れられるかということは、僕らが闘いをやってきた中で、はじめて可能になっていると思います。

民主労総自身も、社会からどう思われようと、闘い続けることで可能になったと思います。

例えば、民主労総の話で言うならば、100人の組合を作って、資本の攻撃によって10人になっても、闘い続けています。民主労総は決断をして、行動に出たときに、支持する人たちが膨大にいるという事を、作り上げてきました。彼らは闘う文化を作ったわけです。全学連運動と同じです。他の党派が逃げる中で、何もかもをかけて、突撃したことで信頼を作ってきたと思います。

沖大で言えば、ビラをまく中で学生が一人決起したとか、広大で言えば、上回生ほど信頼しているだとか、あると思うんです。私の経験で言えば、文化連盟の委員長になったときに、補助金は出さないとされる中で、いろんなサークルが脱退していきました。演劇部の部長は、「やっていることは正しいけども、これ以上はやれない」、と言って脱退しました。新聞学会の会長は、「新聞学会は屈服したくて仕方がない」と言っ

て、脱退するわけです。10年、20年経って私が全力で突撃するときに、黙って見てくれていると思います。信頼を勝ち取っていると思ってます。だから、いざというときに、爆発的な闘いが起きるし、本当の意味での革命になるんだと思ってます。

日本の3.11原発事故が起きて、大量に街頭でデモに立ち上がりました。その時に、「自分が持っていた怒りが皆のものになったから、革命になるんじゃないか」と思って、とにかくデモを盛り上げようと思いました。自分たちの主張を値引かずに突撃する、巻き込んでいく力を、本当の意味で付けなくちゃいけないと思います。

全学連運動は、最初の一步を作り出す、指導部の集団として、この場にいる一人ひとりがなって欲しいと思っています。そういう闘いを自分たちの現場からやっていきましょう。明日の行動は、相手の側は法的措置、警察の導入という事も含めて一つの決戦になっていくと思います。団結して決意をもって臨む事が、相手に対して、敗北を強制します。

相手がどういう立場で出ようが、僕らの立場いかんで、いくらでも物事は変えることができます。本当の革命に向かって、ここにいる私たちから、始めていきましょう。よろしくお願いします。

ありがとうございました。

京大生A君のアピール！

京都大学の熊野寮に住んでいる学生です。僕は寮自治会だとか、学部自治会を手伝ってみたいりました。京大っていうのは様々な学生運動だとか、社会運動だとかにいろいろ参加してきました。

結局、同学会が一番本気だなと思います。やっぱり人生を掛けているというのもあって、信頼できる人たちだと思っています。彼らがいなくなって、熊野寮がなくなるし、立て看がなくなって行って、京大が終わるのは事実なので一緒にやっていきたいと思っています。

だけど例えばバリストで、他の学生に受け入れられてないだとかいろんな議論をしてきて、僕なりの問題意識を伝えていきます。その上で、一緒に課題を解決していくという立場で同学会運動を頑張っていきたいと思っています。以上です。